



はとの子だより

No.10 令和7年1月22日(水)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

それぞれの自律 ～3学期始業式～

3学期が始まって一週間が経過しました。始業式では、「冬休みの思い出と3学期の目標」について、3人の代表児童が話しました。

2年生の佐々木福音さんは、家族で温泉に出かけ、露天風呂の傍を流れる川のせせらぎに心を癒やされた経験を紹介してくれました。3学期のめあては九九を頑張ることと、年下の人たちに優しく接することだそうです。特に二つ目の目標については、わくわく班でお世話になっている6年生が助けてくれた経験から、その6年生のように「カッコいい人」になりたいという目標ができたとのことでした。



4年生の松尾優希さんは、スキー教室に参加したそうです。転ばないこと、姿勢よく滑ることの二つの目標を設定して臨んだのですが、練習しているうちに、姿勢よく滑っていれば転ばないという二つの目標の関連性に気付いたとのことでした。3学期は、10歳の節目を祝う会が予定されていることから、語彙を増やし、伝わりやすい文で誓いの言葉を書くことを目標としていました。

6年生の片山奏さんは、様々な学級や学校での取組を通して気付いたことを話しました。6年生になって以来、様々な話し合い活動に参加する中で、「自分の意見が取り上げてもらえなくても、よりよい方向に事が運ぶ心地よさのほうが大切で、みんなで決めたほうがよい」ということに気が付いたそうです。「一人でやったほうがスムーズに物事が進むのに…」と考えていたかつての自分はいなくなったのだとのこと。



3人の話から、学校教育目標である「自律」の様々な姿が見えてきます。「自律」とは理想とするひとつのかたちがあるわけではなく、子どもたち一人一人が歩んできたプロセスや文脈によって、それぞれなのだということがよく分かります。

「人に優しくカッコいい人」になる自律もあれば、様々な努力が関連していることに気付く自律もあります。自分の考えが採用されるかされないかにこだわらず、みんなで決めることを大切にす姿勢も自律の表れです。

私たち大人にできることは、一人一人の「自律」の過程をしっかりと見届け、その都度認めて励ましていくことだと、あらためて実感した始業式でした。

佐々木雅子校長先生より始業式でのお話

皆さん、おはようございます。新年おめでとうございます。楽しくゆっくりと冬休みを過ごすことができましたか。学校とは一味違う20日間であったと思います。皆さんの一番心に残ることは何でしたか？私は、ここ数年お正月のおせち料理を少しずつできるようにしたいと思ってきました。その結果、今年のNo.1は栗きんとん。過去数年で一番良いものことができました。また、新しく金柑イクラも作ってみました。皆さんの思い出も後で聞かせてください。

さて、皆さんは「二十四節気（にじゅうしせつき）」ということばを知っていますか。数字の二十四に、節目の節、気候や空気の気です。太陽の動きをもとに1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、それぞれをさらに6つに分けて24の季節に区切ったものを二十四節気といいます。日本の自然を表現することば、季節の節目を示すことばとして使われています。1月5日から19日は小さい寒さと書き「小寒」、本格的な寒さを迎える時期です。ちょうど今が小寒の時期です。来週の月曜1月20日には大きな寒さ「大寒」、この小寒から大寒までの約1ヶ月間は1年で最も寒さの厳しい時期になります。

しかし、自然に目を向けると、春への動きも地中で始まっています。二十四節気を約5日ごとに区切って表したものを『七十二候（しちじゅうにこう）』といますが、小寒の真ん中の時期は、「水泉動（しみずあたたかをふくむ）」と表されています。地中で凍っていた泉が動き始める頃です。1月20日は「款冬華（ふきはなさく）」と表され、凍るほどの寒さの中、ふきのとうが顔を出し始める頃です。寒い冬の中で、次の春の準備が静かに力強く進んでいます。

さあ、1年生は2年生になって新一年生を迎える準備、2年生は中学年、3年生は上学年、4年生は高学年、5年生は最高学年、そして6年生は卒業し中学への入学へと準備を始める時期です。身も心も引き締まる冬の中で、温かい春を想像しながら新しい自分への準備を始めましょう。

それと同時に「有終の美を飾る」ということばがあります。最後までやり通して立派な成果を上げるという意味です。始めることは簡単です。一方で、最後までやり抜ききちんと終わらせることは、誰にでもできる事ではありません。150周年の今年度、6年生を筆頭に皆さんは生き生きと頑張ってきました。それをやり抜く3学期です。そして、来年度、151年目にバトンを渡しましょう。5年生は151年目、4年生は152年目、3年生は153年目、2年生は154年目、1年生は155年目のリーダーです。ひとつひとつ附属小学校の歴史を創っていきましょう。

6年生は3月17日の卒業式まで43回の登校、2・3・4・5年生は3月21日が終了式、一日一日を一生懸命楽しく過ごし、みんなの有終の美を飾ると共に、新年度への準備を始めましょう。3学期も、大変な時や困っている時は助け合い、みんなですっきり楽しい学校にしていきたいと思います。



祝 文部科学大臣優秀教員表彰 鈴木聡先生

既に新聞報道でご存じの方もいらっしゃると思いますが、本校の鈴木聡研究主任が、令和6年度文部科学大臣優秀教員表彰を受賞しました。対象分野は「研究推進」の分野です。本表彰は、「学校教育における教育実践等に顕著な成果を挙げた教職員について、その功績



を表彰するとともに広く周知し、併せて我が国の教職員の意欲及び資質能力の向上に資することを目的」としています。県内外に研究の成果を発信してきたこれまでの取組が認められて、この度の表彰となりました。本校では、平成31年の菅野宣衛先生以来の栄誉となります。これもひとえに研究推進を支えてくださった、子どもたちや保護者の皆様あつての受賞です。皆で喜び合いたいと思います。

さて、その研究推進ですが、本校が県や国から高く評価いただいている取組が、「模擬授業」による授業の事前検討です。

授業者が、子ども役の先生方を相手に授業を行います。その反応から、実際に子どもを相手にしたときに起こりうる状況を想定し、更に指導の質を高めるための準備を進めるという研究手法です。



先日は、1年生活科と2年道徳科の模擬授業を実施し、全教員で様々な視点から検討を重ねました。その成果は、2月上旬の校内研究会で検証されることとなります。

子どもになりきった先生方が、楽しみながらも真剣に子どもの内面を探ることによって、子どもたちに最適な指導内容や指導方法を模索します。こうした日々の積み重ねによって、毎日の授業も改善されていきます。

それでも「完璧・完全」とはいかないのが、教育の難しいところでもあり、やりがいを感じることもあります。

今回は、少しばかり先生たちの取組の裏舞台をご紹介します。

150周年記念映画の取組がテレビで紹介されます

6年生の150周年記念映画の取組が、2月2日（日）にABS秋田放送で午前11時55分から12時まで、2月7日（金）にAAB秋田朝日放送で同時刻に、「こんにちは秋田市から」という番組で放映されます。

映画制作に当たっては、株式会社アウトクroppさんからご指導いただきましたが、本校とアウトクroppさんとを取りつないでくださったのが、秋田市企画財政部広報広聴課の「未来創造人材育成・プロモーション事業」の担当の方々でした。秋田市内で活動する若手映像クリエイターと小学生による地域映像制作をとおして、「秋田市のような地方で、全国・世界を見据えた若者のクリエイティブな挑戦を支援する」ことが本事業の趣旨です。秋田市内では、同じく創立150周年を迎えた浜田小学校と本校が、アウトクroppさんからご指導をいただきながら映画制作を行いました。

前号でお伝えしたとおり、本校の映画制作は「完全版」の完成を2月下旬から3月上旬まで待っての公開となります。それまでは、本放送をご覧になりながら公開を楽しみにお待ちください。